

公開情報のとりまとめは以下の通り。

1 内政

（1）国防大臣の交代

21日、これまで国防大臣を務めたアレマン將軍の退役に伴い、ジャマテイ大統領はヘンリー・ジョバニ・レジエス將軍を新たな国防大臣に任命した。

（2）ソロラ県での非常事態宣言の発令

17日にソロラ県サンタ・カタリナ・イシュタワカン市住民13人がナワラ市との間で土地所有問題が生じている場所で殺害される事件が発生したことに伴い、21日、政府は30日間の非常事態宣言を両市に対して発令した。なお、ジャマテイ大統領が同地域に対し非常事態宣言を発令するのは2回目である（前回は2020年5月30日）。

同地域の問題は土地所有に関するものだけでなく、元兵士グループや（同地域で）麻薬の栽培を行う麻薬密売組織なども関係すると言われており、21日、「ジャ」大統領は「（同問題は）既に先祖代々の土地所有を巡る対立だけでなく、同地域で活動する犯罪組織の責任でもある。」と発言した。

（3）不法移民

2021年の米・メキシコからの送還者合計は63,304人（うち米国からは合計17,806人）となり前年比44%増加した。また、米国へ向かう途中で亡くなった不法移民（当国へ遺体が送還された数）は138人、前年（79人）と比較して約1.5倍であった。

2 内政（新型コロナウイルス関連）

（1）グアテマラの感染状況

検査実施数が少ない週末・祝日の一時的な低下を除き、12月上旬の新規感染者数は500件/日前後で、中旬から月末にかけ新規感染者数は減少し、下旬は300件/日前後であった。その後クリスマス後に急増し800件/日前後を推移した。

（2）「アラート信号」システム

期間	赤	橙	黄	緑
11月29日～12月12日	29市	89市	222市	0市
12月13日～26日	20市	35市	285市	0市
12月27日～1月9日	13市	34市	293市	0市

注：2020年7月27日から開始された「アラート信号」システムに関する詳細は当館HP (https://www.gt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/border20200331.html) を参照。

(3) ワクチンの到着

ア 11日、米国から供与のモデルナ・ワクチン200万回分が到着した。今次到着により米国からの供与ワクチンは合計850万回分となった。

イ 16日、COVAXを通じてファイザー・ワクチン100万350回分（購入分）が到着した。

ウ 26日にスプートニクV105万8,400回分、29日にスプートニクV195万8,600回分、30日にスプートニクV12万3,900回分が到着した。これら到着により、800万回分のスプートニクVが年内にロシアから当国へ到着するという契約が履行された。

(4) ブースター接種に関するワクチン計画の変更

7日より第一線の医療従事者に対するコロナ・ワクチンのブースター接種が開始された。12日までに首都ルーズベルト病院の医療従事者3,000人に接種が行われ、医療従事者、60歳以上、慢性疾患のある成人及び12～17歳の未成年にもブースター接種が進められた。

(5) ワクチンの廃棄

7日、保健省は国会の社会保障委員会との会合で、新型コロナウイルス・ワクチン1,832回分が使用期限切れになったと報告した。ワクチンの内訳は、スプートニクV820回分、アストラゼネカ550回分、モデルナ462回分。その他、コールドチェーンの問題により適切な温度管理が行われず、チマルテナンゴ県でスプートニクV2,160回分が、ケツアルテナンゴ県でモデルナ1,180回分が使用不可となった。

(6) コロナ対応病院の閉鎖

14日、ジャマテイ大統領は、コロナ患者が大幅に減少したためコロナ対応病院2院のコロナ対応病棟を閉鎖したと発表した（閉鎖したのはケツアルテナンゴ県の病院（el Hospital Regional de Occidente）及び首都サン・ファン・デ・ディオス病院のコロナ病棟）。保健省は患者のいないコロナ対応病棟を順次閉鎖し、患者が増加した場合は再開する予定と発表した。

(7) アルコール類販売に関する政令の変更（12月16日より施行）

12月15日から1月15日の間に限り、アルコール類の販売、公共の場での飲酒時間を午前2時から午前6時まで禁止とした（それ以外の日にちは午後11時から午前6時まで禁止）。なお、12月24日、25日、31日及び1月1日には同法令は適用外となった（酒類販売・飲酒の規制なし）。

(8) ワクチン接種状況

WHOは10月から2021年末までの間に人口の40%にワクチン接種をするよう忠告していたが、2021年のワクチン接種率（2回接種済）は全国27%。グアテマラ県60.2%、次いでサカテペケス県53.5%、最低県はアルタ・ベラパス県16.3%であった。地域格差と地方農村部での接種遅延が大きな課題として浮き彫りになった。

(9) スプートニクVの購入契約

保健省はスプートニクV1,600万回分の購入契約内容の変更を行った際、前払い済分に当たる800万回分が2021年内に納品される契約に変更されたと発表した。しかし、10月、コマ保健大臣は、ロシアが（年内に800万回分のワクチンを当国へ送るという）契約を履行した場合、2022年及び2023年に更に800万回分のワクチン購入契約が継続されると契約書に記載があると発表した。2021年内にスプートニクV800万回分は到着したが、2022年以降のスプートニクV購入契約に関する詳細は発表されなかった。

3 外交

(1) ジャマテイ大統領の米国訪問

12月6日～8日、ジャマテイ大統領はマルーフ経済大臣、ゴンサレス財務大臣、ブロロ外相と米ワシントンDCを訪問した。ジャマテイ大統領は、アルマグロ米州機構事務総長と意見交換を行った他、サリバン国家安全保障担当米大統領補佐官、ナンシー・マクエルドワニー国家安全保障担当米副大統領補佐官、フアン・ゴンザレス国務次官補、ポップ駐グアテマラ米大使との会談や、マルパス世銀グループ総裁との会談を行った。

なお、12月9日から開催された米国主催の民主主義サミットにグアテマラは他の中米北部三カ国（エルサルバドル、ホンジュラス）と共に招待されなかった。中米北部三カ国が民主主義サミットに招待されなかった理由として、2日にフアン・ゴンザレス西半球担当国務次官補は「民主主義サミットに招待されなかった中米北部三カ国や他の国々は、民主主義とみなすことはできるが、非常に懸念すべき活動が行われている。」と述べ、米国が汚職者リストに追加したコンスエロ・ポラス検事総長に言及した。

(2) 米企業による中米支援

13日、ホワイトハウスは、少なくとも7社の多国籍企業が、ハリス米副大統領が5月に当国を訪問した際に提案した“Call to Action”の一部を担うことで合意し、民間セクターから中米地域への投資は12億米ドルまで増加したと発表した。

4 経済

海外直接投資の増加

2014年以降海外直接投資額は減少傾向にあったが2021年は上昇し、11月までに目標額12億米ドルの約3倍である34億米ドルの投資があった。過去10年間で最高額。

◇主要経済指標◇	2021年			2020年	2019年
	12月	11月	10月		
インフレ率（前年同月比）	3.07%	2.89%	2.96%	3.21%	3.70%
貿易収支（百万ドル）	△1,238	△1,546	△1,388	△6,692.3	△8,710.9
輸出（百万ドル）	1,310.8	1,112.0	1,119.8	11,514.2	11,170.5
輸入（百万ドル）	2,549.7	2,658.3	2,508.2	18,206.5	19,881.4
外貨準備高（百万ドル）	20,939.6	20,701.8	20,663.2	18,468.2	14,789
外国からの送金（百万ドル）	1,512.2	1,356.6	1,418.5	11,340.4	10,508.3
為替レート（対ドル月平均）	7.72	7.73	7.73	7.72	7.69

（出典：中銀、国立統計院）